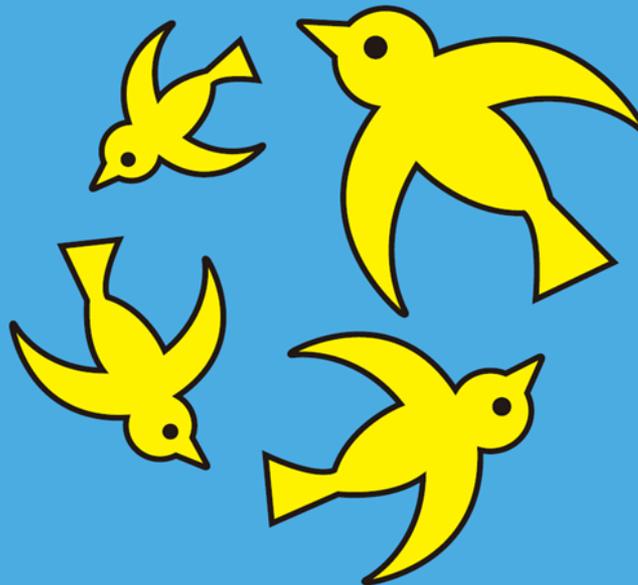


新しい学習指導要領

生きる力

学びの、その先へ



新学習指導要領の趣旨を踏まえた 小学校英語指導について

大分県教育庁義務教育課

小学校英語指導研修 行政説明資料



(1) 言語活動の充実

- 言語活動 = 実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う活動

(2) 単元構成と授業づくり

- 単元を通して付けたい力を育成
- バックワード・デザイン
- 他教科との関連
- 1時間の授業の流れを作る

(3) ALTとの連携・協働

- ALTを積極的に活用し、授業を実際のコミュニケーションの場にする。

(4) 「指導と評価の一体化」のための学習評価の充実

- 児童の学習状況を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、児童生徒が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにする。

(1) 言語活動の充実





言語活動 = 実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う活動
(練習 = 発音練習や歌、英語の文字を機械的に書く活動)

言語活動を通してコミュニケーションの
目的を達成する



※言語活動を成立させるために練習は重要だが、
練習だけで終わることがないように留意する。

【例：My heroへのあこがれを伝える表現を考えよう】

子供たちは、自分のあこがれの人物等について、その写真やイラストを見せながら、This is my hero. He is Ichiro. He can...などの言語材料を使って紹介し合う。

- ◆写真やイラスト、発表を聞く相手を見ずに、それまでに事前準備していた紹介原稿を見ながら発表をする。
- ◆発表が終わるたびに、聞いていた児童から「声が大きくていいね」「アイコンタクトがあるといいね」などと日本語でアドバイスをする。
- ◆発表した子供たちは、もらったアドバイスを基に、ワークシートにカタカナで語句や文を追加していく。



- ◇相手意識・目的意識をもって伝え合い、原稿を読むことではなく、相手に英語で伝えることを大切にする。
- ◇あこがれの人物を紹介してもらったら、発表をした人に、内容について英語で質問をする。
- ◇質問してもらったことを、次の相手への発表内容や方法に生かす。発表を聞く側だった子供も、良いと思った発表を自分の発表に取り入れる。

子供同士が実際に英語を使ってやり取りする中で、自分の考えを整理し、再構成して、表現していく姿を目指す



外国語教育における思考力・判断力・表現力を身に付けている姿

外国語活動は、その特色から、他教科とは違い、思考し、判断したことを、外国語を使って表現することになる。したがって、母語の表現よりもかなり稚拙である。

しかし、どうすれば相手に自分の思いがより伝わるか、相手の思いをより理解できるかを思考し、もっている知識や技能を、場面に合わせて活用している。このような姿が、外国語活動における思考力・判断力・表現力を身に付けている具体の姿である。



「考えながら話す」ことができるようにすることが大切

身近な話題について

目的・場面・状況に応じて

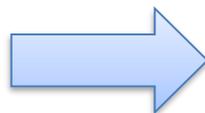
- 伝えたい「内容」
- その内容を伝えるための「英語表現」

② 「内容」と「英語表現」を同時に思考・判断する

① 捉える

③ 表現する

新たな英語表現



(2) 単元構成と授業づくり





児童がコミュニケーションの中で英語を使って活動をするができるよう、単元を見通し、単元のゴールから逆向き設定で1時間ごとの授業を組み立てる。

①

- 学習到達目標に基づいた単元目標を設定する。

②

- 目標達成に適した課題と評価規準を設定する。

③

- 単元終末で行う言語活動（Goal activity）を設定し、授業で行う最後の活動を単元に配置する。

④

- 本時レベルで行う言語活動につながりをもたせる。（ゴールに向かうイメージ）

⑤

- 本時の目標達成に向けてスモールステップで授業を構成する。



◆Small Talkとは

2単位時間に1回程度、帯活動として、あるテーマのもと、指導者のまとまった話を聞いたり、ペアで自分の考えや気持ちを伝え合ったりする活動。5年生は指導者の話を聞くことを中心に、6年生はペアで伝え合うことを中心に行う。

◆Small Talkの目的

- ① 既習表現を繰り返し使用できるようにして、その定着を図る。
- ② 対話の続け方を指導する。

Small Talk の大まかな流れ（例）

1

① 児童に身近なトピックを設定する。指導者がまず、そのトピックについて、これまで学んできた語句や表現を用いて話す。

2

② 話した内容に基づいて、既習のYes/No質問、5W1H質問などを用いて変化をつけながら複数の児童に問いかける。その際、児童の答えに対してリアクションを行い、対話をさらに発展させるように児童の発話を受けた質問を続ける。

3

③ ペアになり、“Talk about ~ with your partner.” などと言い、自由に対話を始めるように促す。

4

④ 次の児童に、前の児童と同じ対話の内容やトピックについて同様に問いかける。これを数人繰り返す、単発の質問が続くイメージではなく、それまでの対話の内容を生かしながら、かつ、質問のパターンに変化をつけることに留意する。

(3) ALTとの連携・協働





ALTを積極的に活用し、授業を実際のコミュニケーションの場にする。

指導計画の作成と内容の取扱い（1）

キ 指導計画の作成や授業の実施に当たっては、ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域人材などの協力を得る等、指導体制の充実を図るとともに、指導方法の工夫を行うこと。



授業を実際のコミュニケーションの場面へ

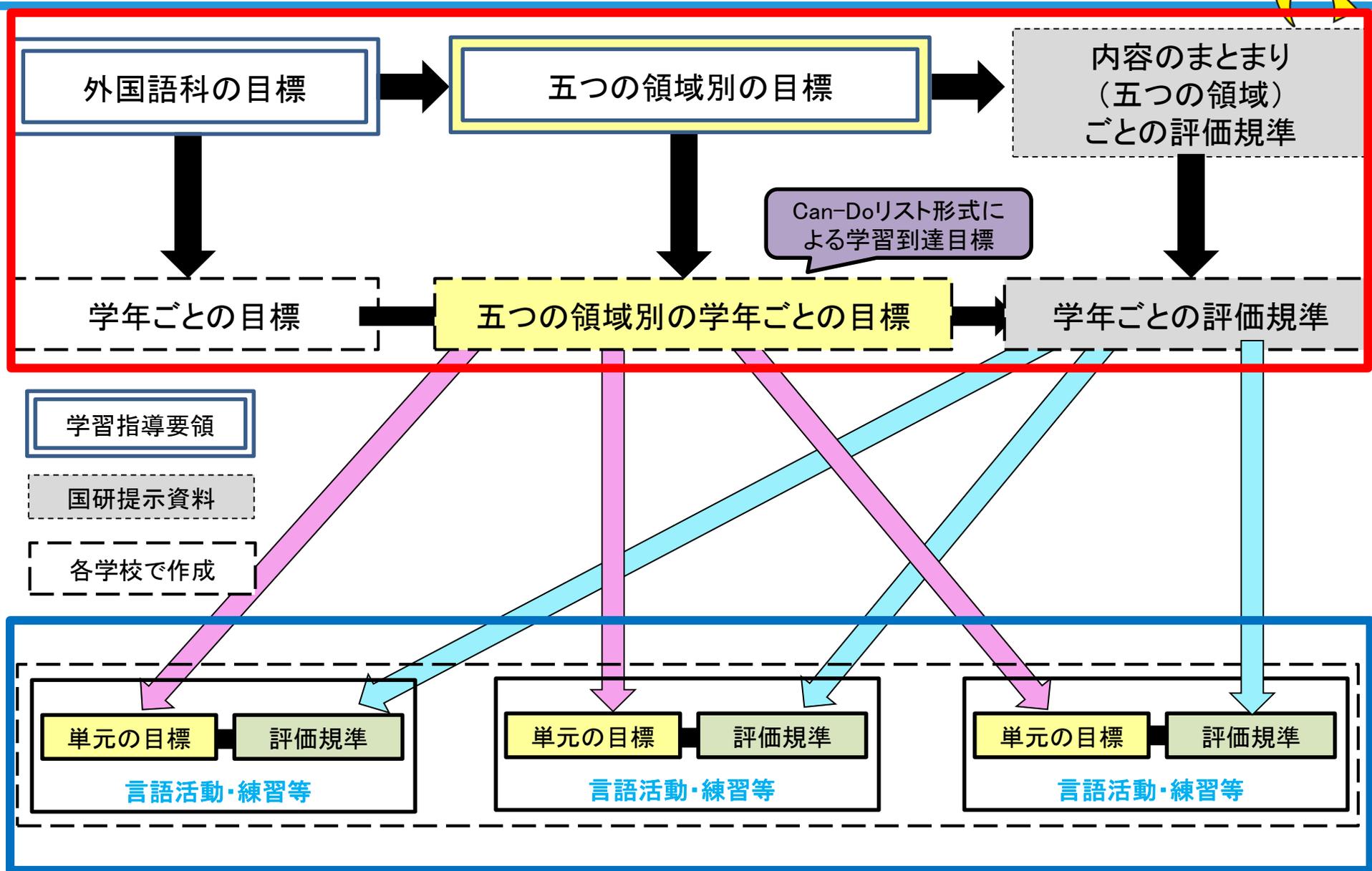
- ① 英語らしい音、表現をその場面や状況に応じて十分に与えられる。
- ② 学級担任等とのTTによる英語の「やり取り」を示したり、活動のやり方を実際に示すことができる。
- ③ 児童と英語で即興性のあるやり取りができる。
- ④ 児童の発話を拾いながら、英語での気付きや学びを促すことができる。
- ⑤ 授業・単元づくりの打ち合わせを行う際に、オーセンティックな学びになるようなアイデアを提供してもらうことができる。
- ⑥ 多様な観点、方法で観察、評価することが可能となり、実際に英語を用いて話したり、書いたりする様子のパフォーマンス評価ができる。

児童が英語に触れる機会の充実

(4)「指導と評価の一体化」のための 学習評価の充実



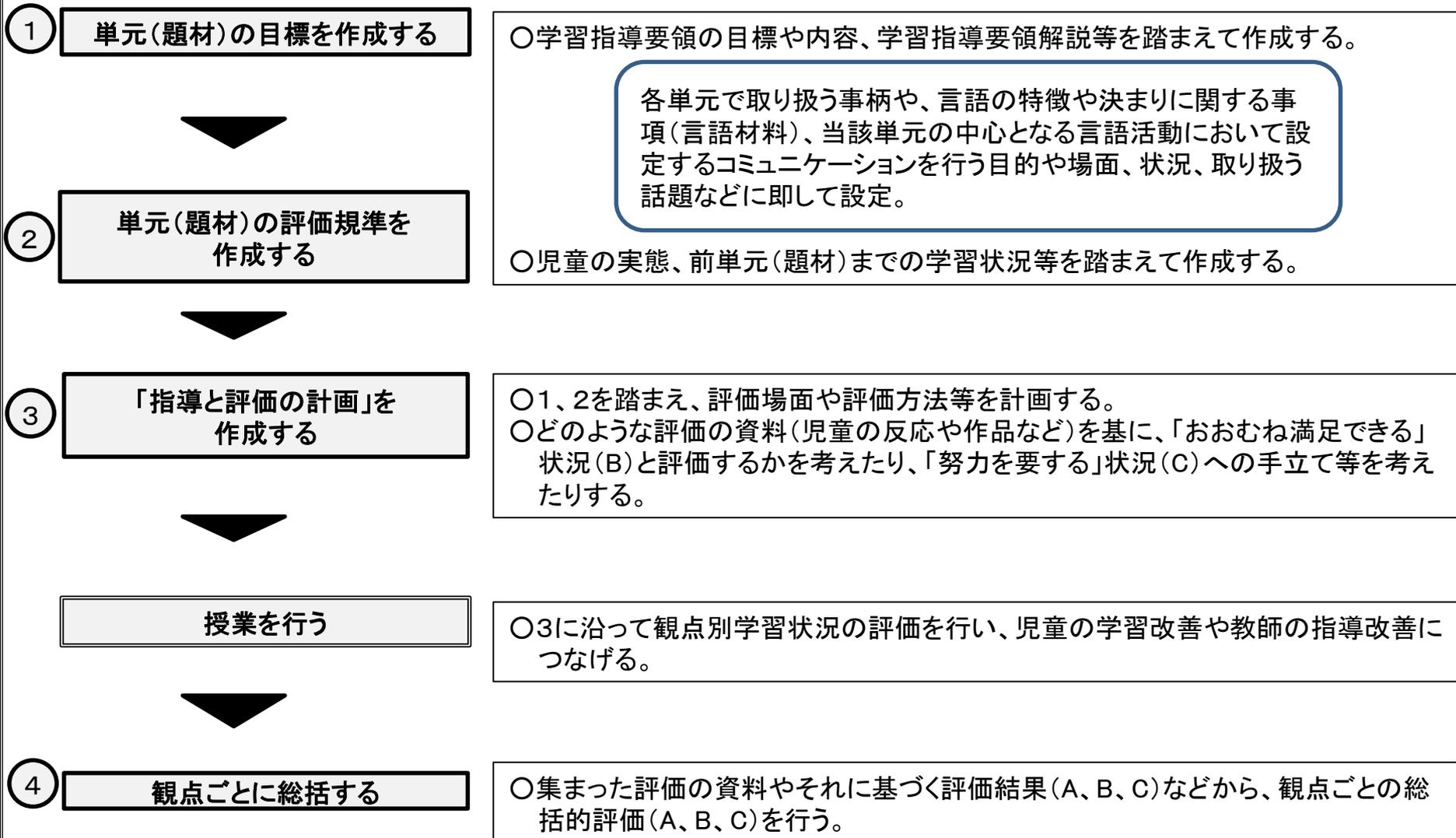
目標と評価規準との関係性



各単元における学習評価の進め方



評価の進め方



① 単元の目標を作成する



単元名 We Can!1 Unit2 「When is your birthday?」 (第5学年)

五つの領域別の学年ごとの目標(設定例:佐伯市立上堅田小学校 外国語科年間指導計画より)

聞くこと	ゆっくりはっきりと話されれば、自分のことや身近で簡単な事柄について簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができるようにするとともに、 日常生活に関する身近で簡単な事柄について具体的な情報を聞き取ったり 、短い話の概要を捉えたりできるようにする。
読むこと	活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。
話すこと 〔やり取り〕	基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり、それらに応じたりすることができるようにするとともに、 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合ったり 、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問したり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする。
話すこと 〔発表〕	日常生活に関する身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにするとともに、自分のことや身近で簡単な事柄についての自分の気持ちや考えなどを、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。
書くこと	大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする とともに、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにするとともに、自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。



単元の目標

各単元で取り扱う事柄や、言語の特徴や決まりに関する事項(言語材料)、当該単元の中心となる言語活動において設定するコミュニケーションを行う目的や場面、状況、取り扱う話題などに即して設定。

自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、相手の誕生日や好きなもの、欲しいものなど、具体的な情報を聞き取ったり、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて伝え合ったりできる。また、アルファベットの活字体の大文字を書くことができる。

※本単元における「書くこと」については目標に向けて指導は行うが、本単元内で記録に残す評価は行わない。

② 単元の評価規準を作成する



評価規準:「話すこと[やり取り]」の場合

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準(設定例)	<p><知識></p> <p>月日の言い方や、I like/want～. Do you like/want～?</p> <p>【言語材料】 What do you like/want? When～? その答え方について理解している。</p> <p><技能></p> <p>知識を使って、誕生日や好きなもの、欲しいものなど</p> <p>【事柄・話題】 について、I like/want～. When is your birthday?</p> <p>【言語材料】 What do you like/want? などを用いて、考えや気持ち</p> <p>【内容】 などを伝え合うために必要な技能を身に付けている。</p>	<p>自分のことをよく知ってもらったり相手のこと</p> <p>【目的等】 をよく知ったりするために、自分や相手の誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて、</p> <p>【事柄・話題】 簡単な語句や基本的な表現を用いて、お互い</p> <p>【内容】 の考えや気持ちなどを伝え合っている。</p>	<p>自分のことをよく知ってもらっ</p> <p>【目的等】 たり相手のことをよく知ったり</p> <p>するために、自分や相手の誕生日や好きなもの、欲しいもの</p> <p>【事柄・話題】 のなどについて、簡単な語句</p> <p>や基本的な表現を用いて、お互い</p> <p>【内容】 の考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。</p>

<知識>

- 「【言語材料】について理解している。」が基本的な形となる。
- 【言語材料】には、当該単元で扱う言語材料が入る。
- 言語材料の種類に応じて、「○○の意味や働きを」などの形で当てはめることも考えられる。

<技能>

- 「【事柄・話題】について、【言語材料】などを用いて、内容を伝え合う技能を身に付けている。」が基本的な形となる。
- 【事柄・話題】には、当該単元で扱う題材における話題等が入る。
- 【内容】には、当該単元を中心とする言語活動において伝え合う、【事柄・話題】についての自分の考えや気持ち、あるいは指示や依頼及びそれらへの応答など、伝え合う内容が入る。

- 「【目的等】に応じて、【事柄・話題】について、簡単な語句や基本的な表現を用いて【内容】を伝え合っている。」が基本的な形となる。
- 【目的等】には、当該単元を中心とする言語活動において設定するコミュニケーションの目的や場面、状況を、「○○に応じて」「○○するよう」「○○するために」などの形で当てはめる。その際、学習指導要領の「言語の使用場面の例」や「言語の働きの例」を踏まえて設定する。

- 「【目的等】に応じて、【事柄・話題】について、簡単な語句や基本的な表現を用いて【内容】を伝え合おうとしている。」が基本的な形となる。

単元の目標と単元の評価規準の作成例



<p>単元名</p> <p>We Can!1 Unit2 「When is your birthday?」 (第5学年)</p>	<p>関係する内容のまとめ</p> <p>「聞くこと」 イ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。</p> <p>「話すこと[やり取り]」 イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。</p> <p>「書くこと」 ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。</p>
---	--

単元の目標
 自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、相手の誕生日や好きなもの、欲しいものなど、具体的な情報を聞き取ったり、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて伝え合ったりできる。また、アルファベットの活字体の大文字を書くことができる。
 ※なお、本単元における「書くこと」については目標に向けて指導は行うが、本単元内で記録に残す評価は行わない。

単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	<p><知識> 月日の言い方や、I like/want～. Do you like/want～? What do you like/want? When～? その答え方について理解している。</p> <p><技能> 誕生日や好きなもの、欲しいものなど、具体的な情報を聞き取る技能を身に付けている。</p>	<p>相手のことをよく知るために、誕生日や好きなもの、欲しいものなど、具体的な情報を聞き取っている。</p>	<p>相手のことをよく知るために、誕生日や好きなもの、欲しいものなど、具体的な情報を聞き取ろうとしている。</p>
話すこと[やり取り]	<p><知識> 月日の言い方や、I like/want～. Do you like/want～? What do you like/want? When～? その答え方について理解している。</p> <p><技能> 知識を使って、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて、I like/want～. When is your birthday? What do you like/want? などを用いて、考えや気持ちを伝え合うために必要な技能を身に付けている。</p>	<p>自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、自分や相手の誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合っている。</p>	<p>自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、自分や相手の誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。</p>

五つの領域ごとの観点別評価の考え方



例：5月 We Can! 1 Unit 2 「When is your Birthday?」

	聞くこと			読むこと			話すこと[やりとり]			話すこと[発表]			書くこと		
	知・技	思判断表	態度	知・技	思判断表	態度	知・技	思判断表	態度	知・技	思判断表	態度	知・技	思判断表	態度
児童1	B	C	C				B	C	B						
児童2	B	B	B				B	B	B						
児童3	B	A	A				A	A	A						

例：6月 We Can! 1 Unit 3 「What do you have on Monday?」

	聞くこと			読むこと			話すこと[やりとり]			話すこと[発表]			書くこと		
	知・技	思判断表	態度	知・技	思判断表	態度	知・技	思判断表	態度	知・技	思判断表	態度	知・技	思判断表	態度
児童1				B	C	B	B	B	B						
児童2				B	B	A	B	B	B						
児童3				A	B	A	A	B	A						

学年末に評価を総括し、指導要録に記載する際に全ての評価情報が揃っていればよく、各単元で、全ての領域・観点について記録に残す評価を行う必要はない

ただし、各単元において、3観点をバランスよく見ることは重要

③ 指導と評価の計画を作成する



【単元の目標】		主な評価とその場面の例		
<p>自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、相手の誕生日や好きなもの、欲しいものなど、具体的な情報を聞き取ったり、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて伝え合ったりできる。また、アルファベットの活字体の大文字を書くことができる。</p>		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
【本時の目標】				
1時	月の言い方を知る。また、アルファベットの活字体の大文字を書くことができる。			
2時	月名を聞いたり言ったりすることができるとともに、日付の言い方を知る。また、アルファベットの活字体の大文字を書くことができる。			
3時	誕生日や好きなものを聞き取ることができる。また、アルファベットの活字体の大文字を書くことができる。			
4時	誕生日や好きなもの、欲しいものを聞き取ったり、それらについて尋ねたり答えたりして伝えたりすることができる。また、アルファベットの活字体の大文字を書くことができる。	「聞くこと」: 指導者の誕生日や好きなもの、欲しいものを聞き取っている。<行動観察・ワークシート記述分析>		
5時	相手のことをよく知るために、誕生日などについて短い話を聞いて、具体的な情報を聞き取ったり、誕生日や好きなもの、欲しいものを尋ねたり答えたりして伝え合うことができたりする。また、アルファベットの活字体の大文字を書くことができる。		「聞くこと」: 相手のことをよく知るために、誕生日などについて短い話を聞いて、具体的な情報を聞き取っている。<行動観察・テキスト記述分析>	「聞くこと」: 相手のことをよく知るために、誕生日などについて短い話を聞いて、具体的な情報を聞き取ろうとしている。<行動観察・テキスト記述分析>
6時	自分のことをよく知ってもらったり相手のことを知ったりするために、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合うことができる。また、アルファベットの活字体の大文字を書くことができる。	「話すこと[やり取り]」: 誕生日や好きなもの、欲しいものを尋ねたり答えたりして伝え合っている。<行動観察>		
7時	自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合おうとする。		「話すこと[やり取り]」: 自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合っている。<行動観察>	「話すこと[やり取り]」: 自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合おうとしている。<行動観察>



【事前の手立て】

- 誕生日や好きなもの、欲しいものについて尋ねたり答えたりする表現の定着を十分に図る。
When is your birthday? / What do you want for your birthday? / Do you like ~? / Your birthday is ~. / You want / like ~.
- 中学年外国語活動で慣れ親しんだり、これまでの単元で学習したりした語句や表現を意識し、自分の気持ちや考えを伝え合うモデルを示す。

本時の目標

自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合おうとする。

【思考・判断・表現における「おおむね満足できる」(b)の状況】
学習したことを用いて、実際に尋ねたり答えたりして伝え合っている。

【主体的に学習する態度の観点における「おおむね満足できる」(b)の状況】
自分のことをよく知ってもらったり、相手のことをよく知ったりするという目的に向かっている。

評価場面：Activity 「お祝いの気持ちを込めてバースデーカードを届ける」

- ・ 児1は、クラスの誰かの誕生日や好きな色などの情報が書かれたバースデーカードを持っている。
- ・ 友達にWhen is your birthday? What do you want for your birthday? Do you like ~? など尋ねて回りながら、バースデーカードを本人に届ける。

児1: Hello!

児2: Hello!

児1: ...なんていうんだっただかな。
(指導者に教えてもらって)

児1: When...is birthday, your birthday?

児2: My birthday is July 24th.

児1: OK! え一つと、Do you like ...swim?

児2: Yes, I like swimming.

児1: OK、swimming. え一つと、Do you like cat?

児2: Yes, I do. Do you like cats?

児1: No.

児2: What animal do you like?

児1:

児2: Do you like dog?

児1: Yes. Color、blue. Do you like blue?

児2: Yes, I like blue.

児1: えっと、present? Birthday present?

児2: I want a blue desk.

児1: OK. Blue desk! Birthday card. Here you are.

児2: Oh, thank you.

児1: OK.

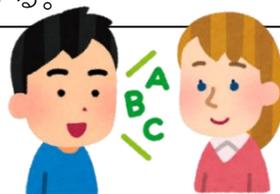




思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	児童の姿	評価	児童の姿	評価
児童1 	自ら既習語句や表現を用いて実際に自分のことを伝えたり、相手のことについて尋ねたりしていないことから、「努力を要する」状況(c)と判断。	c	自分のことを知ってもらったり相手のことをよく知ったりしようという目的に向けてコミュニケーションを図ろうとする意欲は見られるので、「主体的に学習に取り組む態度」の観点では「おおむね満足できる」(b)と判断。	b
児童2 	自分のことを知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、既習語句や表現を使って誕生日や好きなもの、欲しいものなどを尋ねたり答えたりしようとし、実際にしているので「思考・判断・表現」において「おおむね満足できる」状況(b)と判断。	b	自分のことを知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、既習語句や表現を使って誕生日や好きなもの、欲しいものなどを尋ねたり答えたりしようとし、実際にしているので、「主体的に学習に取り組む態度」において「おおむね満足できる」状況(b)と判断。	b

【児童への支援、指導の改善に向けて】

- 児童の改善点について、振り返りシート等に記入したり、口頭で伝えたりして児童の学習改善につながるようにする。
- 指導者は、次の単元以降も常に既習語句や表現を用いて、まず指導者が自分のことを言うてから尋ね、児童が既習語句や表現を十分使う機会を与え、それらが定着するよう指導を継続する。



【話すこと [やり取り]」の評価にかかわって】

「話すこと[やり取り]」の評価については、ペアになる相手によって条件が変わることも考えられるため、学期に1回程度のパフォーマンス評価において全児童を、一定の条件にそろえて見取することも考えられる。

児童の学習状況を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、児童生徒が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにすることが大切